

氏名	兼宗美幸	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学・助産学				
学位	修士(学術)84号				
学歴	1986年千葉大学看護学部看護学科卒業、2000年文教大学大学院人間科学研究科修士課程生涯学習学専				
経歴	1986年東京都立築地産院助産師、1988年埼玉県立衛生短期大学看護学科助手、1996年同講師、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教授、2007年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会(役職)	日本看護学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本更年期と加齢のヘルスケア学会、日本女性医学学会、日本女性心身医学会、日本看護研究学会				

### 【2017年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	該当なし				
(2) 論文					
1	保健医療福祉系大学生における栄養素摂取の現状と課題	共著	CAMPUS HEALTH;54(2);P.131-136	○坂本めぐみ、兼宗美幸、鈴木幸子	2017.08
2	保健医療福祉系学生の食生活と健康生活習慣	共著	CAMPUS HEALTH;54(2);P.245-251	○鈴木幸子、坂本めぐみ、兼宗美幸	2017.08
(3) 学会発表					
1	中山間地域における母子保健の現状と必要とする専門職への支援	共著	第58回日本母性衛生学会、神戸市	○坂本めぐみ、兼宗美幸、西岡笑子、三上由美子、古谷健一	2017.09
2	看護学生の食生活および栄養素摂取の現状と課題	共著	第37回日本看護科学学会、仙台市	○坂本めぐみ、鈴木幸子、兼宗美幸	2017.12
(4) その他					
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	科学研究費助成事業16K12129基盤研究C	中山間地域における母子保健と周産期医療体制の整備における専門職の支援(研究分担者)			2016.04~2020.3
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					
1	母性看護学Ⅱ(女性と家族)	2017.11~2017.12	内容と担当者を整理し、具体的で現状に即した女性と家族へのリプロダクティブヘルスに関わる看護の講義を行った。		
2	遺伝と看護	2017.10.~2016711	紙上事例を修正し、目的目標を到達しやすいようにファシリテータの介入を調整した。		
3	母性看護学Ⅰ	2018.01.	DVIに関して看護職による支援を中心に事例や視聴覚教材を用いて講義した。学生にとって身近な内容の可能性を踏まえて慎重に行った。		
4	リプロダクティブヘルスと看護	2018.01.	性暴力に関する看護職による支援を講義した。自主的なテーマ設定によるGWと発表は学生が主体的に活動できるよう支援した。		
5	看護学演習(リプロダクティブ・ヘルス)	2018.10~2018.12	大学院博士前期課程の院生に対し、研究論文を基にゼミを行った。内容は、更年期女性の健康支援、遺伝性疾患と出生前診断と受診対象への支援における倫理的課題と方法など。		
6	リプロダクティブヘルス論	2017.04~2017.07	大学院博士前期課程の院生に対し、研究論文を基にゼミを行った。内容は、性暴力被害とその支援など。		

<b>(2) 演習</b>			
1	母性看護学Ⅲ	2017.12-2018.01	産褥期・新生児期の紙上事例の看護過程展開の演習において、理解を深められるよう個別およびグループ別に指導を行った。
2	周産期のケア	2018.01.	「助産師の職業倫理と生命倫理」の講義及び「妊婦健康診察/保健相談」の演習を担当。学習目標に沿って個人およびグループの学習を支援した。
3	分娩期のケア	2017.04-08	「演習・産痛緩和」「助産過程」「分娩介助技術」を担当。臨床を踏まえて、学生個々の能力を伸長するよう支援した。
4	卒業研究	2017.04-2018.01	学部生5名を担当し、希望する研究テーマに関する活動を支援した。
<b>(3) 実習</b>			
1	母性看護学実習	2017.05-07	3年生を対象に女性と家族の生涯を通じた健康の視点を持つよう、産科病棟実習およびカンファレンスなどでかかわった。
2	総合実習(母性看護学領域)	2017.07.	4年生を対象に女性と家族の妊娠分娩産褥期と健康の視点を深められるよう、産科外来実習およびカンファレンスなどでかかわった。
3	IPW実習	2017.10.	霞ヶ関南病院の教員FTとして学生6名が「連携と統合」を体験を通して理解できるよう施設FTと調整して支援した。
4	助産学実習Ⅰ	2017.05-06.	学習目標を達成できるよう保健センター職員と調整を重ね、事前指導、カンファレンス、学内カンファレンス等で個別に関わった。
5	助産学実習Ⅱ	2017.08-10.	学生の個性を踏まえ、病院指導者の協力を得ながら関わった。
<b>(4) 論文指導</b>			
1	博士前期課程	2017.04～2018.03	1年次生1名の指導補助
<b>(5) その他</b>			
1	専門職講座「産科看護職のための学習会」	2017.05	卒後教育の一環として「産科医療補償制度と助産活動」の講演を企画し、実習施設の協力により実施し多数の参加者を得た。
2	専門職講座「臨床家のための研究セミナー」	2017.05～2017.12	卒後教育の一環として実習施設の看護職を対象に看護研究についての講義とディスカッションによるゼミ形式での講座を実施した。主体的に学ぶ場として好評を得た。
3	一般公開講座「女性のための健康講座」	2018.03	住民への健康教育の一環として、更年期女性の健康講座を実施した。更年期の健康について簡潔に講義し、実技演習に繋げた。
<b>4. 社会貢献活動</b>			
<b>(1) 講演会、研修会等の講師</b>			
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ
1	看護学生実習指導者講習会	埼玉県看護協会	母性看護学実習の狙いと展開
2	mwe交流会(本学「特定講座」)	mwe	女性が活躍する社会の構築に向けて～女性の特性を踏まえた健康推進への支援～
3	看護実践専門分野	埼玉県看護協会	思春期の性
4	平成29年度の女性のための健康セミナー	越谷市	これからの未来予想図を描いてみよう
開催年月			
			2017年11月
			2018年3月
			2018年3月
<b>(2) 国、自治体、財団法人等における委員等</b>			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	越谷市	越谷市男女共同参画推進委員会	2016.06～2017.06
<b>(3) ジャーナリズムでの発言</b>			
	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
<b>5. 学内運営(委員会委員)</b>			
1	入試実施部会委員会 副委員長		
<b>6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)</b>			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
<b>7. 特許の保有状況</b>			

	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		